

# 因島高校を支援する会

発行  
因島高校を支援する会  
会長 竹中啓修  
事務局：因島高校PTA  
10845-24-1281  
題字 竹中啓修

## 「因島高校を支援する会」 平成17年度 常任幹事会開く

平成17年7月27日(水)、土生町、日立労働会館にて、「因島高校を支援する会」平成17年度常任幹事会が、行われました。

竹中啓修因島高校を支援する会会長の挨拶に続き、ご来賓の村上和弘因島市長、松浦幸男広島県議会議員、宮地康福教育長とご挨拶をいただき、松林博文因島高校校長が、日頃のご支援に対してお礼を述べ続いて議事にはいりました。

### 平成16年度事業報告

1. 会報の発行  
会報(第22号から第27号)を発行
2. 海外語学研修の実施支援  
16年5月 生徒募集11名 応募
- 16年7月 市役所にて壮行会
- 16年8月 オーストラリアに10日間の予定で出発(生徒11名)(引率1名)(介護1名)
- 16年8月 市長に帰国報告
- 16年8月 オープンスクールにて報告会実施
- 17年3月 報告書作成
3. オーストラリア生徒の受け入れ支援  
今年度は、未実施
4. 衛星放送サテラインの実施  
スーパースタディー(土曜衛星放送)の実施を支援
5. 学校クラブ活動振興

### 野球部・吹奏楽部・囲碁部

6. 学校開放事業  
PTAが、昨年度に引き続き、陶芸教室、新たにビーチバレー教室、若返りウエイトトレーニング教室を実施。これを支援した。
7. 会議  
7月、支援する会会長幹事会開催。(因島労働会館)
8. ホームページ作成管理
9. 就職内定者テーブルマナー講習会 支援  
17年3月、ナティークにて開催

### 新年度の事業計画

1. 会報の発行  
年6回発行。因島市区長会の協力により、市広報と同時に全戸配布する。因島市教育委員会の協力により、市内の小中学校保護者に配布する
2. 海外語学研修の実施支援

### 3. オーストラリア生徒の受け入れ支援

- 先方から依頼のあった場合対応
4. 衛星放送サテラインの実施  
土曜衛星放送サテライン・夏期休暇、年度末休暇中のサテライン
5. 学校スポーツ、クラブ活動振興
6. 学校開放事業の支援
7. 会議
8. ホームページ作成・管理
9. 就職内定者テーブルマナー講習会 (高校PTAと共同企画)
10. 先進校、先進地視察
11. 講演会の実施
12. 生徒への地域行事への参加支援  
因島水軍祭り(小早レーズ、跳楽舞への参加)
13. その他  
議案はすべて審議了承され、常任幹事会を終了しました



今年度は、本土の進学校に伍して劣らない生徒が入学勉強中であること、大学入試模擬試験の状況、難関大への進学も夢ではないなどの報告が相次ぎ、拍手がおこった。  
今後とも、みなさまがたのさらなるご支援をいただき、市民・保護者・生徒から、より信頼される因島高校になりましよう、お力添えをお願いいたします。

### 良くなった因島高校に 引き続きご支援を

元PTA会長 村上正則

私は、平成12年と平成13年に因島高校のPTA会長を務めさせて頂きました。  
当時の学校の様子は、統合したばかりで学校秩序が確立されておらず、朝の遅刻は生徒の半数以上・制服を着てこない・ビーチサンダルで学校に来る・授業中に携帯電話で話す・授業時間中に便所へたむろし座って弁当を食べる女生徒・当然校内教室はゴミだらけ、など信じられない光景が数多くありました。その様な状態ですので、市内中学校から因島高校へ進学する生徒の数は減少し、「このままでは、新因島高校も生徒数減少のため、統廃合の対象になりかねない」という強い危機感をいだいておりました。  
そこで、そのような状況を打破し、因島高校の現状および将来について、共同して一緒に考え行動しよう、と、因島高校同窓会、因島高校PTA、因島市PTA連合会(市内小中PTA)が中心になって、平成12年11月27日に「支援する会」を設立しました。  
設立当時の主な事業目標は、  
1. 学力向上対策 2. 校内規律の確立 3. クラブ活動の支援でありました。

5年目を迎えた今の因島高校は、当時と同じ高校には思えないほど、変貌しております。生徒の遅刻は皆無であり、校内のゴミも無く、生徒の服装・言葉遣い・挨拶まで非常によくなり、さらに校外での問題行動も激減しております。校内の規律の確立面では、同窓会の皆様や学校の先生方のご尽力により、ほぼ目標に達していると評価してよいかと思います。  
しかしながら、市内中学生の本校への進学率は依然厳しい状況で推移しているため、事業目標でもありました、学力向上対策とクラブ活動の支援を今後とも強力に推進していく必要があると思っております。当然、今まで行っておりまして、「海外語学研修(因島市助成事業 4回実施)」や「代々木ゼミサテライン講座」も因島市が尾道市と合併されても継続できるように、皆さんとともに努力していきたいと思っております。クラブ活動も近年目覚ましい活躍をしております。ご支援ご協力をよろしくお願致します。  
(同窓会報より転載)

### なよ竹の風に まかする身ながらも



因島高校校長  
松林 博文

15、6年前、母の高等女子校の卒業アルバムを見たことがある。表紙に追憶皇紀二千六百二年とあり、次のページに昭和18年3月卒業と書いてあった。  
皇紀二千六百二年と言えば昭和17年のことだが、前年12月8日に始まった対米英蘭戦は、6月のミッド・ウェー海戦の大敗北と8月の米軍のガダルカナル上陸で、この戦争に少し翳りが見え始めたとは言え、2年

後のサイパン失陥以降のような空気がなく、この頃は国民は必勝を信じていた。従って、暗雲立ちこめる雰囲気はこのアルバムにはない。戦時下とはいえ、学徒戦時動員はまだ始まっておらず、英語で書かれた寄せ書きを見ると敵性語追放や竹槍訓練などは無縁の時代だったことがわかる。部活も華・茶道はもちろん、テニス・バレーボール・陸上などがあり、調理実習だろウカレライスを作っているところなど今の高校生とほとんど同じで、ほほえましく思った。

伝わってきた。アルバムの中程に校庭で生徒全員が薙刀の稽古をしている写真が載っていた。薙刀の稽古とは一見いかにも戦時下の学校らしく思えるが、そうではない。薙刀の稽古は当時の高等女子校で見られた一般的な授業風景である。武家の伝統を受け継いで薙刀は大和撫子の心のひとつだった。この時代は男子は軍事教練、柔・剣道、女子は薙刀が必須の時代だったのだ。  
多分女性の先生が書かれたのだろう、その写真に添えてあったのが、  
「なよ竹の風にまかする身ながらも、たわまぬ節はありとこそ聞け」という一首だった。

この和歌は、慶応四年(明治元年)秋半ばあの会津戦争で、籠城のための貴重な食糧を足手まといの婦女子が食べては申し訳ないとして籠城を肯んぜず自決した家老西郷頼母の妻千恵子(当時34歳)の辞世である。私は二度会津を尋ねている。西郷頼母の屋敷跡で21人ももの集団自決をジオラマで見、千恵子がわずか9歳の三女を初め、四女と2歳の嬰兒を懐剣で刺し殺し、その後喉を突いて自決した様子を知った時、日本民族ある限り、会津こそは日本人の心のふる里として永遠に語り継がれるだろうと思

ったのだ。そういえば、最近「あつたんです。まだ、極上の日本が・・・」というキャッチフレーズで「会津白虎まつり」をアピールするJRの宣伝ポスターを新幹線の駅で見かけた。女子高校生とおぼしき乙女が白鉢巻きの稽古姿に薙刀を小脇に抱えている写真は、

「武士の猛き心にくらぶれば 数にも入らぬ我が身ながらも」  
の一首と当時の娘子隊を彷彿させ、137年の時を越えて脈々と伝えられる会津魂を感じさせて清々しさを感じた。  
「ならぬことはならぬものです」の日新館教育の会津には「極上の日本」というJRの謳い文句どおり我々が忘れた「何ごとか」があるように思える。

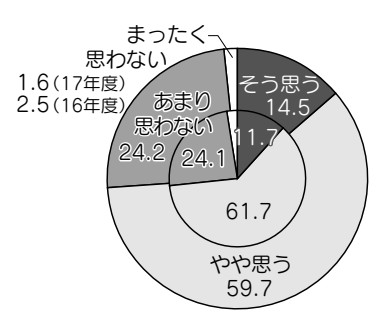
大正から昭和にかけて九州帝国大学教授であった河村幹雄は「民族の運命、国民文化の将来、国家の前途を念慮とする者にとりて婦人ほど貴きはなし」と言い、女子教育の重要性を説いている。そして、その要諦は、女子の使命の神聖であること、その天分の貴いこと、それは男子の企てのとも及

ぶところではないことを自覚させることである。と述べ、「婦人の中に未来の人は眠れり」という言葉を残している。  
女子生徒諸君、知っているかな?この国の最高の神は天照大神神と言って女性であることを。そして、我が国は昔から「女ならでは夜の明けぬ国」と言い習わし

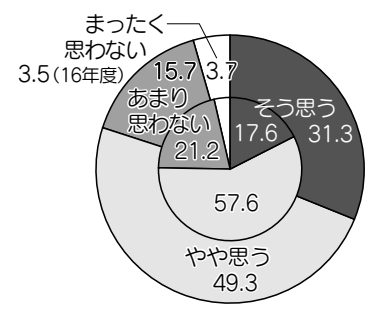
# 因島高校学校評価アンケート (市内中学3年保護者に実施)

今年度も7月に因島5中学校の3年生保護者の方にアンケートをお願いしました。その集計ができましたのでお知らせします。

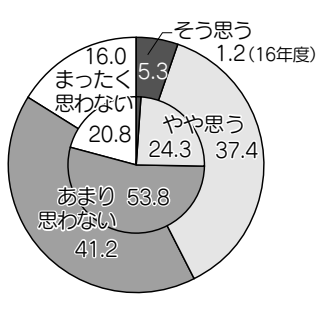
「良く当てはまる」「やや当てはまる」との回答を肯定的評価として示すと、「因島高校は進学や就職などの進路指導に力を入れている」74.2%、「因島高校は行事やクラブ活動を積極的に推進している」78.4%、「因島高校は子供を入学させても良い学校である」80.6%など、10項目の質問のほとんどについて、昨年度よりも高いポイントを示しています。また、「良く当てはまる」との回答もそれぞれの項目において大きく増加しています。一方、交通マナー(昨年比+17%)や挨拶(同+16%)、服装・頭髪(同+9%)など、肯定的評価が大きく増加しているもの、改善すべき点もあらためて明らかとなりました。引き続き指導の強化・充実に努めていきます。



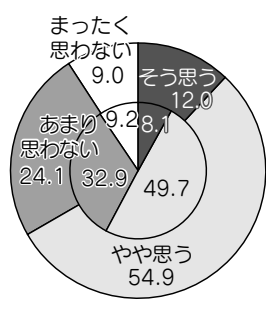
進路指導に力を入れている。



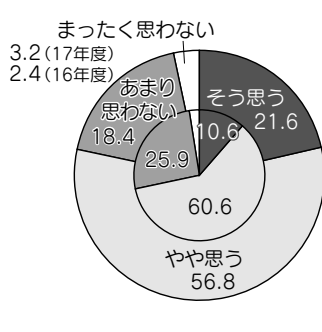
子どもを入学させてもいい学校である。



交通ルールが守られている。



服装や頭髪がきちんとしている。



行事やクラブ活動を積極的に推進している。

## 第4回 オーストラリア語学研修報告

7月28日～8月10日まで、生徒13名の参加を得て、第4回語学研修を実施しました。今年度はナジーインターナショナルカレッジをベースにプリズベン市内の高校での授業体験、ファーム見学に加えて、ワールドコーストやドリームワールド観光などを組み入れた行程が組まれ、充実した旅となりました。インターナショナルカレッジでは、日本だけでなく、中国、香港、台湾、韓国など様々な国から語学研修に来ており、ホームステイも国際色豊かなものになりました。行き帰りの台湾市内観光を含め、大変充実した体験が出来たと感じています。ありがとうございました。

## オープンスクールを開催しました

オープンスクールへの参加人数は208名、島内の中学生を中心に、遠くは府中市の上下中学からの参加もありました。はじめに、オープニングセレモニーとしてインテリハイに出演した田頭 剛君の体操の演技、吹奏楽部による演奏を行いました。特に、田頭君の鉄棒の全国レベルの技(伸身のトカチェフ、着地は伸身の新月面など)に場内は大いに盛り上がりしました。その後、在校生、卒業生による因島高校の紹介、また、因島高校で高等学校の授業を体験してもらいました。

まだまだ、残暑厳しい時期でしたが、多くの参加をいただきました。巨大な校舎をもつ因島高校のオープンスクールはいかがでしたか。来春お会いできることを楽しみにしています。記入していただいたアンケートの集計については、HPに掲載していきますのでご覧ください。

## 因島高校チーム水軍祭に参加健闘

8月28日、大浜町しまなみビーチにて、恒例の水軍祭が行われ、因島高校から、男子チーム「男気」と女子チーム「美優伝」の2チームが小早レースに出場しました。練習は6月からスタート。男子チームは予選を見事突破。過去最高の32チーム中10位という記録を残しました。女子チームは善戦及ばず6チーム中5位。

## 田頭剛君(3年)メイプル賞受賞

今夏、千葉県で開催された全国高校総体(体操競技)に出場した田頭剛君(3年)が、広島県教育委員会の「メイプル賞」を受賞しました。これは、文化、スポーツの全国規模の大会で優秀な成績を取った児童・生徒に贈られるものです。今回の表彰には、十四人と六団体が選ばれ、八月下旬、県庁にて表彰式がありました。受賞の理由は、今春、三重県で開催された第二回全国高等学校体操競技選抜大会においての跳馬の部優勝です。

同窓会のご支援とPTAのご協力により、懸案であった空調設備が完成しました。一昨年、広島県教育委員会、県立高校に順番で、空調設備の導入をおこなうとの提案がありました。ところが、予算不足のため、各高等学校PTAによる設置に変更され、尾三地区の高等学校では、平成16年度に多くの高校に設置されました。因島高校においては、平成17年度に

## 参加した生徒の感想

僕は今年、男子チーム「男気」のメンバーとして小早に参加しました。夏休み前から練習を始めましたが、暑く、厳しく、つらいものでした。手の皮もお尻の皮も破れてしまい、しんどくて正直参加したことを後悔した時もありました。でも、一度出ると決めたらからは途中で投げ出すような無様なことはできないと思いき、頑張りました。そして本番を迎えました。練習では

普通教室12室と管理棟会議室に設置ということになりました。総費用2800万円のうち、同窓会より1500万円の寄付を頂き、残りはPTA会員一人月額700円程度の負担ということに決定し、PTAが、今後10年償還で設置できることになりました。2学期より稼働しています。使用時間帯や適切な温度設定など省エネルギーに配慮しながら、効率の良い学習のために役立っていきま

進学希望の因島高校3年生は、お盆の1週間を除く4週間の補習授業を受講し、受験に備えました。開講した16講座のほとんどはセンター試験をターゲットにしたもので、受講生は眉間にしわを寄せながらがんばりました。8月7日には、受験の場慣れを兼ねて、全国模試を河合塾福山校で受験しました。帰りのバスの中では出題内容と自分の出来具合の話題で持ちきりでした。他校生に混じって受けた緊張感も手伝って、大いに刺激になりました。この夏を青白く過ごした3年生には、すてきな来春が約束されたことでしょう。尚1・2年生には1週間の補習授業が開講されました。



我が家の娘は、尾道の高校に通っているため、帰りが遅く、バス停まで迎えに行っておりません。昔、私が因島高校へ行った頃は、真つ暗な中を自転車で通学していたのを思い出します。過保護になったという人もいますが、女性の夜道が危ない世の中になったことが原因です。女生徒が安心して、夜道を通学できる世の中に戻ってほしいものです。

「教員は公務員なので、政治問題にかかわることはできない。」という返答であった。▼「いつか、生徒が先生や親を交えて自分たちの住む郷土を論じることが、なぜいけないのか反論したが、やむなくPTAの保護者として地元に住む教員2、3名のみで実施した。残念であった。」▼「因島の将来について、子どもたちも保護者も教員もあまり考えないこともなく、今日が来てしまった。合併のときは、もうそこまで来ている。」